

猿新聞

伊勢志摩サミット モンキードッグ紹介

主要国首脳会議「伊勢志摩サミット」が、平成28年5月に開催されます。

三重県及び県内各市町は、サミットが持つ国際的な意義を踏まえ、それぞれの魅力や特性を、国内外に発信する好機と捉えています。

伊賀市・名張市では、サミットの波及効果を伊賀地域全体の活性化につなげたいと両市連名による提案を、鈴木三重県知事に提出しました。会場に向いていてもなす「配偶者プログラム」。



写真：市民の大きな反響を呼ぶ「モンキードッグ」デモンストレーション

「配偶者プログラムとは」
各国首脳は缶詰状態で会議を進めるのに対し首脳と共に関島を訪れた各国首脳夫人らは積極的に地元の人々との交流を深め、日本の歴史文化や自然に触れ合われます。これを踏まえ、開催地域は事前に「おもてなし」の心を込めたプランを策定しておきます。これを配偶者プログラムといっています。

編集・発行者
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

いまのところ、が少なくありません。立ち枯れた木もあります。落ち葉の堆積も少なく、「かん養機能」が働かず雨が降ると表面の土が流されていきます。



荒れる森林

先日、同事業の現状取材のため小波田地区を訪問。
地区の人は事業終了後3年も経ち、記憶も薄れ尋ねる人たちがほとんどが、「そんな」と知らなくて。「今日はボウズか？また出直そう」と思っていた矢先、出会った人が同地区の元区長で、場所を案内していただきながら「詳しいことは分からないが同事業は、全て業者任せの事業で区民が「出合」で汗を流しているのので記憶も薄れているのでは」と。

森林再生 獣害対策 プロジェクト

石破地方創生相は、

「日本は国土の67%が森林で、山村や森林の再生なくして地方創生はありえない」。

日本の森林はなぜ荒廃したのでしょうか。

日本林業は、昭和20年〜30年代には、戦後の復興のため、木材需要が急増し、国は広葉樹中心の天然林から、成長が早い針葉樹中心の人工林に置き換える「拡大造林政策」を実施。ようやくその政策がおわる頃、木材供給不足のため政府は輸入規制を緩和し廉価な外材輸入を推進。1964年に木材輸入は、完全自由化され、外材が市場を席巻するようになり、国産材の価格が暴落し、採算がとれないため、放置されてしまった荒廃林が全国に広まっていきました。

山に入ると林内は薄暗く、下草も生えていなく、植えて数十年たつのに細

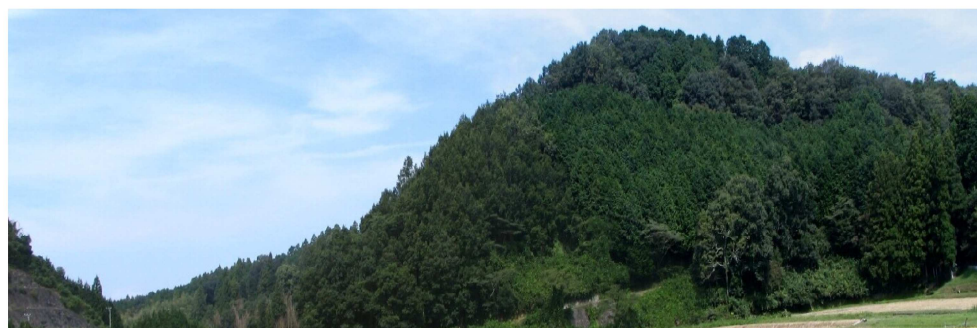
野生動物と人間の長い共生の関係を壊してきたのは、現代に生きる私たちだとすれば、それを元に戻すのもまた私たちの責任です。

三重県では、この現状を踏まえ「暮らしと産業を守る獣害対策プロジェクト」立ち上げています。

「集落周辺への頻繁な出現」を解決するためにかつて野生鳥獣の生息地となっていた森林を再生することに、集落周辺への野生鳥獣の出現の減少を図ります。

かつて野生鳥獣の住処であった森林を再生し、野生鳥獣の生息しやすい環境を創出するとともに、集落周辺の里山などにおいて強度間伐等を行い、野生鳥獣の隠れ場所の解消を進め、獣害が発生している地域での出没機会の減少を図ります。

主担当部局 農林水産部
写真右下：ディアライオンが広がる名張市赤目町龍神山
(ディアライオンシカの摂食高線のこと)。



更新伐とは、人工林の下層植生の繁茂や、天然林の質的改善を図るなど、森林の適正な更新を目的として行う伐採。

写真上が、同事業を施行された山の全景で、頂上部には更新伐した育成林が広がっているものと思われます。写真下は、長さ620m、幅10mの緩衝帯を金網で囲んでいます。

モンキードッグ

は草木が生い茂り管理不足が目立ちます。これも地域住民が直接携わり、汗を流してないことが原因かも？
地区の人は、「手のひらを返すような効果はないが、長い目で効果を見守って行きたい」。

サルは活動エリアを移動させるだけでは、モンキードッグの意味がありません。モンキードッグは万能ではありません。1頭のモンキードッグが守れる範囲にも限界があります。

人手が加わることにより面的な追い上げが可能になり効果は倍増します。地域の声。

「サルの出没がなくなつた。」「侵入する頻度が減少した。」「モンキードッグが活動する地域を避け、他の農地などに出没するようになった。」「
宇陀・名張市では、現在30頭のモンキードッグが認定されていますが、全域に面的に配置するには、まだまだ駒不足です。平成21年導入以来、3頭死亡。飼主・犬の高齢化も進み、行く先が危ぶまれています。
犬を飼っておられる方、地域のためにモンキードッグへの参加を是非お願いします。

サルの出没状況

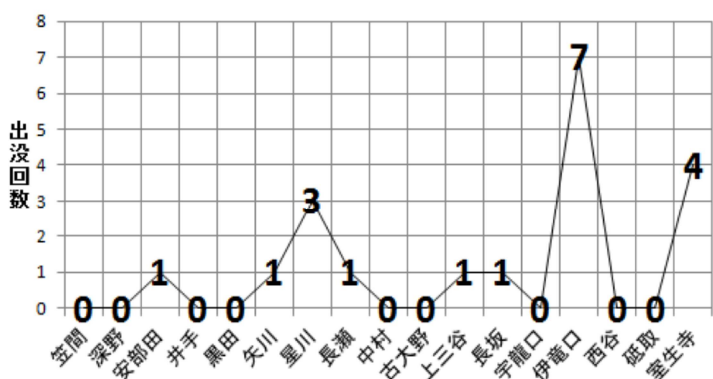
名張A・B群

9月の指南員報告

A群は、既存遊動域のほぼ全域を遊動しています。
B群は、国道165号線の南側を遊動しています。両群とも、実りの秋をむかえ、自然、栽培双方の果実を中心とした採食行動を示しています。特に栽培している未熟のクリ、カキが各地で採食されています。A群は、住宅地の宅地内まで侵入して栽培果実を採食しています。B群は、数日不明になることが、今月何回かありました。先月の笠間の例にもみられるように遊動域が、拡大している可能性も考えられます。

9月移動状況

名張B群出没状況グラフ



名張A群出没状況グラフ

